

保育闘争委員会ニュース
公的保育を守り拡充させよう

2015年
4月3日(金)
第127号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

「保育を楽しむための連続講座第5回」
高橋光幸氏講演に大きな笑いとお保育の楽しさを知る

～乳児保育も幼児保育もおもしろがればおもしろくなる～

3月20日(金)ラパスホールにて、第5回保育を楽しむための連続講座を開催し、22名の参加がありました。今回は記念すべき第1回の講師であった高橋光幸さんが再度講師を務め、乳児・幼児保育の楽しさを伝えてもらいました。

当日は今年度年長児を担当した高橋さんのクラスの卒園文集、アルバムを回覧しながらの和やかな雰囲気での講座となりました。文集・アルバム共に高橋さんが、子どもからも保護者からも「愛されている」ということが伝わる内容で閲覧した参加者も心が暖まるものでした。

講座内容は高橋さんの保育実践のエピソードを基に子どもに笑いを巻き起こし、子どもも保育者も笑顔になって保育を楽しむことが最も大切なことであり、子どもの遊び心が存分に発揮されるには保育者が遊ばなければ、おもしろがらなければならいというお話しに、参加者全員がその「当たり前」のことが出来ているのかな?と改めて考えさせられる内容となりました。

講座後は2グループにわかれての交流を行いました。交流では講座の感想や参加者の保育の悩みや疑問を聞きあいました。「小さな実践を真似するだけで楽しくなる」「ふざけの中にもしっかりと理論を持って保育をしているところがやはりすごい」という様々な感想が聞かれました。

最後の高橋さんから、「明日から使える〇〇遊び!」のような「HOW TO」本ではなく保育理論・発達理論の本を読み、「なぜこういう保育をするのか?」「なぜ1歳児はこのような行動をするのか?」理論を学んでほしいという熱いメッセージをいただきました。

【アンケートに書いていただいた感想をいくつか紹介します。】

男性：20代 保育士2年目 「ただ楽しいだけでなくそこには理論と発達のことを深く理解しているのだなと感じました」

男性：20代 保育士3年目 「笑うことっていいな。早く子どもに会いたくなって思いました。もっともっと保育を楽しんでいこうと思います」

女性：20代 保育士2年目 「講座やグループ交流の中で自分の保育を思い出すことが出来ました。こんな風に自分も楽しめているなと思う場面とあ～あできていないなと思う場面がありました」

女性：30代 保育士8年目 「保育を楽しむ…簡単なようで難しいですがまずは色々な出来事を楽しむ姿勢を身につけていこうと思います」

女性：20代 保育士5年目 「理論を学ぶ大切さを改めて感じています。若いから…とか関係ないですね。笑えるウラには理論がある。そんな素敵な保育をできる保育者になりたいです」

女性：30代 保育士16年目 「グループ交流は色々な経験年数の方がいて共感しあったり、聞いて学ぶところもあつたりで楽しかったです」

【裏面へ】

豊島区職労・保育支部

育休代替への人材派遣導入の提案を 来年度は撤回

豊島区においては、2010年4月から育児休業代替に任期付職員制度が導入されました。初年度から任期付職員が不足し、毎年のように4月採用予定者を前倒し採用するなど、多くの問題を抱えています。しかし、保育園課長は「任期付職員制度は何も問題のないよい制度である」の一点張りで、「以前のような課付制度に戻せ！」という私たちの要求には耳を傾けません。

そのような状況の中、「制度には何も問題のないよう制度である。しかし、現状では配置できないこともあり、その部分に人材派遣を活用したい」「組合に提案すると反対されるので、27年4月から提案はせず（勝手に）導入する」と10月に説明がありました。区職労とも協議し、「人材派遣を導入する場合は組合との協議が必要である」と抗議しました。

その後、1月末になり、改めて支部に「27年度から任期付職員が不足した場合には育休代替に人材派遣を導入したい」と提案がありました。即、各園に伝え意見を集めました。その結果、「人材派遣反対」の声が多く、保育園課長に「支部としては人材派遣に反対である」と回答し、その場で27年度導入については撤回させることができました。とはいえ引き続き協議事項となったため、今後も「以前のような課付制度に戻せ！」を基本要求に運動を強めていきます。

【傘下の組織や保育関係者に配信・配布してください。】